

ひぐち秀敏の県議会だより



# にじいろ

## 創刊号

発行責任者 樋口秀敏  
事務所 南魚沼市塩沢 1412-2  
阿部アパート 101号室  
電話 025-782-5233  
E-mail h-higuchi@kta.biglobe.ne.jp



初めての一般質問で本会議場の演壇に立つ、ひぐち秀敏県議。魚沼基幹病院課題など、知事の姿勢をただした

3年ぶりの最終赤字となり厳しい経営状況にある県立病院、2023年に開院が予定される県央基幹病院について多くの議論が交わされました。

自民党議員からは「赤字のままの病院は本当に必要とされているのか」、「一般会計から病院事業会計への繰出金の抑制が必要」など

## 県立病院の存続求める

県立病院の再編、縮小を推進するような質問もありました。

私は「山間へき地など不採算医療を担う県立病院の役割は重要。引き続き県が責任をもって運営していくべき」、「県財政の悪化を理由に県立病院への繰出金を問題視するのは誤り」と、

性を訴え、その存続を求めて花角知事の考えをただしました。

花角知事は「県立病院の役割・あり方などについて、予断を持たずして検討していく」と、見直しを否定しない姿勢を示しました。県の繰出金の大部

分は、山間へき地や救急、小児、周産期など、民間の運営が望めない

私が所属する未来にいた小山代表は、代表質問で「県財政危機を招いたこと」

は「公債費に対する地方交付税措置率の見直しによる

将来的な実負担額の増加に備え、早くから資金手当債

を含む地方債の発行抑制に取り組むべきであつた」と

見通しが甘かったことを認めました。

しかし、財政危機宣言

の2か月前に成立した今

年度予算は3年ぶりの増

新潟県議会6月定例会が、6月18日から7月5日の日程で開催されました。花角知事が5月7日に行つた財政危機宣言や、県立病院の運営、県央基幹病院の計画見直しを中心に論戦が交わされました。私は、初めての一般質問に立ち、新潟県に質の高い雇用と、安全・安心の医療提供体制をつくり出すことをめざして、花角英世知事をはじめ執行部の考え方をただしました。(一般質問の詳細は2・3面)

これまでの県政運営を、どのように検証しているか」質問いただきました。花角知事は「中長期的な財政負担の軽減につなげていく」と、公共事業費を特別扱いする

額。中でも公共事業費などの投資的経費が前年度比で237億円、12・4%増となつたことについては、「有利な財源を活用したもの」

で、「中長期的な財政負担の軽減につなげていく」と、公共事業費を特別扱いする

ような答弁を繰り返しました。

さらに、「県政運営の失敗を県民サービスの切り下げに押し付けることはあつてはならない」とただし、

花角知事は「単なる行政サービスの低下にならぬよう」取り組む決意を示しました。その言葉どおりの

一般的な答弁を繰り返しました。

6月議会の代表質問、一

般質問を経ても、財政危機に至った原因と責任の所在は明らかになつていません。

県政運営が行われるよう、引き続きチェックしていく

6月定例会

## 財政に議論が集中 原因と責任は曖昧のまま

### ひぐち県議の所属委員会等

議会会派 未来にいがた

常任委員会 厚生環境委員会

※県民生活・環境部、防災局、福祉保健部、病院局の所管事項を調査

特別委員会

人口減少問題対策

特別委員会

※結婚や子育て、安定的な雇用の創出などの対策等について調査



ひぐち県議の質問を聞く花角知事



ひぐち秀敏県議が6月定例会で、初めての一般質問を行いました。本会議場の演壇に立ったひぐち県議は、質の高い雇用の創出と、地域医療の充実を求めて、県執行部の考え方をただしました。

# ひぐち県議 花角県政をただす

## 一般質問の概要

### 待遇改善を明言せず

会計年度任用職員

**桶口** 「東京一極集中」を是正し、人口減少のスピードを減速させていくためにも質の高い雇用を創出しなければならない。自治体で働く臨時・非常勤職員も同様だ。2017年に地方公務員法及び地方自治法が改正され、20年4月から会計年度任用職員制度が導入される。総務大臣も国会答弁で「制度導入したことや期末手当の支給を可能としたことは、臨時・非常勤職員の待遇改善に資すると考へる」と述べている。法改正の趣旨は、任用方法の統一と処遇の改善にあると認識するが知事の所見を伺う。

**桶口** 総務省の通知により、従来の臨時・非常勤職員制度が不明確であり、各地方公共団体によって任用・勤務条件に関する取扱いが様々であつたものを統一的な取り扱いを定めて適切な運用を確保することと認識する。

**桶口** 法改正の付帯決議には「制度移行にあたっては不利益が生じることなく」とある。下回らないとは改善と理解するが、待遇が改善されることでよいか。

**桶口** 岩手県に次いで多い13の県立病院を運営する新潟県だから、病院運営に対する姿勢は県民の命と健康にかかわる。厚生労働省が2月に発表した医師の充足率の指標で、新潟県はワースト2位だった。医師の確保は急務で、13ある県立病

院のスケールメリットをいかした研修体制強化や研究費の拡充、学会への参加費補助など行うべきだ。県立病院の魅力向上をどのように図っていく考えか。

**桶口** 山間へき地など民間医療機関の立地が困難な地域での医療提供や、救急小児、周産期など不採算医療を担う県立病院の役割は重要だ。これらの医療提供は、県内どこにおいても必要な医療を受けるためには欠かせないとともに、地域に雇用を生み、人口流出を防ぐ効果も發揮している。引き続き県が責任をもつて県立病院を運営していくべきだ。

**桶口** 患者減少や医師の不足・偏在など厳しい医療環境などから、病院事業会計は危機的な経営状況になり、県立病院が本来地域で果たすべき役割・機能にも支障を生じかねない。他医療機関や市町村等との役割分担、機能分化と連携の下、持続可能な経営を確保していく必要があり、行財政改革有識者会議等の意見を踏まえ、徹底した経営改善に取り組むとともに、県立病

### 会計年度任用職員

2017年に地方公務員法及び地方自治法が改正され、自治体で働く臨時・非常勤職員の採用方法や任期等を明確化するとともに、期末手当の支給が可能になりました。具体的は各自治体が定めることとされていますが、新潟県でもどのような制度にするか議論が行われています。

自治体で働く臨時・非常勤職員は全国で約65万人、全職員に占める割合はおよそ4分の1です。しかし民間企業で働く非正規労働者に適用されるパートタイム労働法や労働契約法が適用されない上、地方公務員法でも採用方法や労働条件が明確に定められていませんでした。



再質問を求めるひぐち県議



### 県立病院の役割見直しも

医療問題

**桶口** 岩手県に次いで多い13の県立病院を運営する新潟県だから、病院運営に対する姿勢は県民の命と健康にかかわる。厚生労働省が2月に発表した医師の充足率の指標で、新潟県はワースト2位だった。医師の確保は急務で、13ある県立病

院のスケールメリットをいかした研修体制強化や研究費の拡充、学会への参加費補助など行うべきだ。県立病院の魅力向上をどのように図っていく考えか。

**桶口** 患者減少や医師の不足・偏在など厳しい医療環境などから、病院事業会計は危機的な経営状況になり、県立病院が本来地域で果たすべき役割・機能にも支障を生じかねない。他医療機関や市町村等との役割分担、機能分化と連携の下、持続可能な経営を確保していく必要があり、行財政改革有識者会議等の意見を踏まえ、徹底した経営改善に取り組むとともに、県立病

**桶口** 法改正の付帯決議には「制度移行にあたっては不利益が生じることなく」とある。下回らないとは改善と理解するが、待遇が改善されることでよいか。

**桶口** 岩手県に次いで多い13の県立病院を運営する新潟県だから、病院運営に対する姿勢は県民の命と健康にかかわる。厚生労働省が2月に発表した医師の充足率の指標で、新潟県はワースト2位だった。医師の確保は急務で、13ある県立病

院のスケールメリットをいかした研修体制強化や研究費の拡充、学会への参加費補助など行うべきだ。県立病院の魅力向上をどのように図っていく考えか。

**桶口** 患者減少や医師の不足・偏在など厳しい医療環境などから、病院事業会計は危機的な経営状況になり、県立病院が本来地域で果たすべき役割・機能にも支障を生じかねない。他医療機関や市町村等との役割分担、機能分化と連携の下、持続可能な経営を確保していく必要があり、行財政改

革有識者会議等の意見を踏まえ、徹底した経営改善に取り組むとともに、県立病

## 一般質問

早期の全面開院が待たれる魚沼基幹病院



**桶口** 児童虐待相談対応件数は、17年には13万3千件余に増えている。千葉県野田市では1月の児童虐待死事件を受け、一時保護所の定員を拡大するほか、職員増員を前倒しで進め、関連予算を

## 夜間嘱託員不足で支障

## 児童相談所

基準に基づく繰り出しであつても全額交付税措置されるものではない。本県の県立病院数が全国で2番目に多いこともあり、病院事業及び基幹病院事業の2つの会計に対する繰り出金の合計は15年度から17年度の平均が約170億円で、交付税措置を除いた実負担が100億円を超えている。病院事業は収支悪化

するが、県内には定員を満たしていない養成機関も複数ある。南魚沼の養成機関訪問に同行するなど、引き続き財団の取り組みを支援していく。当面は県からの派遣により職員数を確保する必要があり、関係部局と調整を進める。

**桶口** 南魚沼に看護師養成機関があり、魚沼基幹病院へも看護師を多数輩出している。来年4月には十日町に県立看護専門学校が開校

院の役割・あり方などについて予断を持たずして検討していく。18年度決算では、一般会計から116億円余の繰り出しが行われていて、県の財政悪化の一因とされている。繰り出金は総務省の繰り出基準に基づくもので、国からも地方交付税が交付されている。県財政の悪化を理由に県立病院への繰り出金を問題視するのは誤りではないか。

**知事** 基準に基づく繰り出しであつても全額交付税措置されるものではない。本県の県立病院数が全国で2番目に多いこともあり、病院事業及び基幹病院事業の2つの会計に対する繰り出金の合計は15年度から17年度の平均が約170億円で、交付税措置を除いた実負担が100億円を超えている。病院事業は収支悪化

するが、県内には定員を満たしていない養成機関も複数ある。南魚沼の養成機関訪問に同行するなど、引き続き財団の取り組みを支援していく。当面は県からの派遣により職員数を確保する必要があり、関係部局と調整を進める。

**桶口** 南魚沼に看護師養成機関があり、魚沼基幹病院へも看護師を多数輩出している。来年4月には十日町に県立看護専門学校が開校



北里大学保健衛生専門学院

**桶口** 一時保護所は職員の確保が困難などの課題を抱えている。中でも中央児相員の増員や研修等による質の確保に努め、体制強化に力を図った。従来より細やかな支援ができるいると考える。児童福祉士等の専門職員の増員や研修等による質の確保に努め、体制強化に力を図る。

**知事** 今年度から、5つの児相に心理判定嘱託員を各1名配置し、相談体制強化を図った。従来より細やかな支援ができるいると考える。児童福祉士等の専門職員の増員や研修等による質の確保に努め、体制強化に力を図った。従来より細やかな支援ができるいると考える。児童福祉士等の専門職員の増員や研修等による質の確保に努め、体制強化に力を図る。

**桶口** 状況は認識している。児童福祉士等の増員への対応なども含めた児相の体制強化と併せ、一時保護所の充実について検討していく。

**知事** 現行の最低賃金制度の下で、東京都との差が拡大し、労働条件の差が本県から首都圏に労働力が流出する一因となっている。先般、地域間格差の拡大につながるランク制度の見直しと格差是正に向けた段階的な引き上げ、中小企業への支援策の充実を国に要望した。意欲ある企業の挑戦を後押しし、企業収益の拡大から賃金の上昇、最低賃金引き上げにつなげていきた

## 引き上げの取り組みを

## 最低賃金

**桶口** 非正規労働者が2千万人を超える、全労働者の4割にも上る。最低賃金の引き上げは非正規労働者をはじめ、全労働者の賃金底上げにつながる。地方における最低賃金の改善は、良質の雇用を生み出し、若者の定住にも寄与すると考えられる。しかし現行の4ランク制では大都市圏との賃金格差は広がる一方だ。県としても、中小企業支援策を拡充し、地方における最低賃金の引き上げに積極的に取り組むべきだ。

**知事** 現行の最低賃金制度の下で、東京都との差が拡大し、労働条件の差が本県から首都圏に労働力が流出する一因となっている。先般、地域間格差の拡大につながるランク制度の見直しと格差是正に向けた段階的な引き上げ、中小企業への支援策の充実を国に要望した。意欲ある企業の挑戦を後押しし、企業収益の拡大から賃金の上昇、最低賃金引き上げにつなげていきた

**桶口** 222万人余の県民の命と安全を守る立場にある知事として、1日も早い脱原発社会の実現をめざすべきと考えるが、いつ頃に脱原発社会が到来すべきと考える。

**知事** 現時点において、技術の進歩や再生可能エネルギー導入状況等が見通せない中で、具体的な時期を示すことは難しいと考えている。

## 脱原発社会めざせ

## 原子力政策

**桶口** 原子力発電の収益の多くは本社機能のある都市

おらず、運営に支障をきたしていると聞く。施設の老朽化も著しく、保護した児童に十分対応できていないとも聞く。一時保護所の充実に向け、どのように対応していくか。

**知事** 状況は認識している。児童福祉士等の増員への対応なども含めた児相の体制強化と併せ、一時保護所の充実について検討していく。

**桶口** 222万人余の県民の命と安全を守る立場にある知事として、1日も早い脱原発社会の実現をめざすべきと考えるが、いつ頃に脱原発社会が到来すべきと考える。

**知事** 現時点において、技術の進歩や再生可能エネルギー導入状況等が見通せない中で、具体的な時期を示すことは難しいと考えている。

桶口議員は厚生環境委員会に所属しました。厚生環境委員会での、ひぐち議員の主な質問と執行部の回答は次のとおりです。

# 安全・安心の暮らし求め

## 県民生活・環境部

### 地元就業へ相談体制強化

**桶口** 地元企業を選んでもらうため、県内の優良企業、頑張っている企業を積極的にPRすべきではないか。

**県民生活課長** 自主返納しやすい環境づくりとして高

齢者や家族向けの講演会を昨年度2か所、今年度も新発田市と上越市で開催する。交通政策局で、乗り合いタクシーやコミュニティーバスの運行など、市町村の取組みを支援している。

**桶口** 中央児童相談所のボイラーが故障していると聞いたが事実か。

**児童家庭課長** 修繕に向けて早急に対応したい。

※9月に修繕工事が完了。

**桶口** 魚沼基幹病院の循環器内科医をはじめとした医師確保の現状を伺う。

**基幹病院整備室長** 循環器

医師は昨年6月に常勤医を1人確保し、大学からの派遣医師の協力も得て週5日

の外来診療を実施してい

る。今年4月からは県外の

非常勤講師の協力も得て、

心臓カテーテルの治療をし

ている。手術、又は緊急の

手術を必要としない急患は

魚沼基幹病院で受け入れて

いる。緊急手術が必要な患

者は長岡県域に搬送する

が、必要に応じて基幹病院

の医師が同乗して医療的ケ

アを行っている。

**桶口** 職員アンケートで、

プロパー職員の12パーセン

トが1年内に他へ行きた

は違うのではないか。責任

は違うのではないか。責任